

令和 5 年度 瑞穂台小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤として、よい校風の樹立と 21 世紀を担う人づくりを目指し、社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい人間の育成を図る。

○よく考え、自ら学ぶ子 ○心豊かで、思いやりのある子 ○自ら行動し、たくましい子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

本校教育の基本理念を示す合い言葉「よく学び 心のふるさと みずほだい」を家庭・地域と共有し、「学び」と「心のふるさと」を全教育活動の柱として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指す。

【目指す学校像】 ○学び（個の成長）のある学校 ○居場所（認められる場所）のある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 充実感や自己有用感を得ることのできる学校 ～児童一人一人が自分の良さを発揮～
- (2) 確かな学力の向上 ～基礎・基本の確実な定着と主体的・協働的に学習に取り組む態度の育成～
- (3) 生命尊重と健康で安全な生活 ～自ら進んで体力づくりや望ましい生活習慣を身に付ける力の育成～
- (4) 特別支援教育の推進 ～個々の教育的ニーズの把握とその実態に応じた丁寧な支援～
- (5) チーム瑞穂台小 ～教職員個々の持ち味の発揮と組織的・計画的な教育活動の推進～
- (6) 人権意識の高揚と指導力の向上 ～教育者としての使命感の自覚と研究・研修、日常の相互研鑽～
- (7) 安心安全な教育環境の実現 ～危機管理意識の向上と職員相互の連携～
- (8) 小中一貫教育の推進 ～地域学校園の交流連携による児童の確かな学力や豊かな社会性・人間性の育成～
- (9) 働き方改革の推進 ～勤務時間を意識した働き方と校務の明確化や効率化、教職員の健康管理～

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9 年間の連続した学びの中で、

生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育
～他者と関わりあいながら、たくましく成長する児童・生徒の育成～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、小学校学習指導要領に示された、教育目標の内容、県教育委員会「指導の指針」、市学校教育推進計画、市学校教育スタンダード、指導の重点を踏まえた教育課程を編成する。
- (2) 教育活動全体を通して、教科等の目標や内容を見通し、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成に向け、小中一貫教育の視点を生かしながら教育課程を編成する。
- (3) 児童の発達段階や実態、地域の実態を適切に把握し、教科横断的な学習の充実、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などにより、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - 本校の合言葉「よく学び 心のふるさと みずほだい」の具現化を目指す。
 - ・ 児童・学校・家庭・地域が一体となった合言葉の共有による「わがまちの学校」の経営
 - ・ コロナ・リカバリーの現状を踏まえ、これまでの学校の当たり前を見直しつつ、豊かななかかわりを生む教育活動の充実
 - ・ ゆとりをもって児童と向き合うことができる働き方改革の推進
- (2) 学習指導
 - 主体的・協働的に学び合える児童の育成に努める。
- (3) 児童生徒指導
 - 自分を大切にするとともに、他者の存在を尊重する心豊かな児童の育成に努める。
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
 - 自らの健康・安全を考え、目標に向かって継続して挑戦する児童の育成に努める。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価 ○：指標達成 ▲：指標未達成 A：拡充 B：継続 C：縮小・廃止
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実を図る。 ・既習内容を生かして自分の考えを持つことができるような課題を設定する。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を授業の中に位置づける。 ②相手意識をもち、目的意識をもって対話できるように、必然性のある課題の設定や、発達段階に応じた指導を継続的に行う。	B	【達成状況】 ▲児童 88.4% ○教職員 100% ・児童の肯定的回答は市平均を2.3ポイント下回った。 ・各種学力テストでは、県や市の平均と同程度か上回っている。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・①については、児童がより明確に見通しを持ったり振り返りを行ったりできるような授業展開を工夫する。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①道徳の時間を中心に、学級活動、「心を育む時間」などでも心を育む場を意図的に設け、相手の気持ちを考えた言動ができるよう、児童の実態に応じた指導を行う。 ②児童の意識化を図るために、「みず台3つの約束」を朝会で取り扱う。 ③教育相談を活用し、相手を思いやることなどについて、直接、指導・支援を行うとともに、人権週間を活用し、人権意識の高揚を図る。	B	【達成状況】 ▲児童 85.2% ○教職員 100% ・児童の肯定的回答は市平均を5.3ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・①については、温かい言葉のやり取りを増やすため、「ふわふわ言葉」の掲示などを工夫する。 ・③については、早期に児童の悩みに対応するため、教育相談ポストの活用方法を検討する。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①学校教育目標や学年目標の具現化を図る。 ・学期や行事の個人目標を掲げさせ、達成への自己評価の機会を設ける。 ・可能な範囲で保護者と目標や成果を共有する。 ②運動を通して粘り強さを育てるために、各種検定表の達成に向け補助具等を活用するとともに、長期休暇中の課題とし、学校と家庭で連携して取り組ませる。 ③認め励ます教育を推進するとともに、各種便りやHP等で「目標に向かって努力している様子」や「粘り強く取り組んでいる様子」を積極的に発信する。	B	【達成状況】 ▲児童 88.4% ○教職員 100% ・児童の肯定的回答は市平均と同程度であった。 ・新体力テストは全国平均と同程度であった。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・②については、運動機会を創出するために、「うつのみや元気っ子チャレンジ」への取組を強化する。

1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①健康への関心を高めるため、健康診断結果や受診勧奨通知の配付などの個に配慮した関わりや、養護教諭を中心とした保健指導を行う。 ②危険を予測・回避できる能力を育てるため、災害や不審者を想定した避難訓練において、職員の指示によらず、自ら考えて行動する場面を設定する。 ③外遊びを推奨するとともに、安全に気を付けて生活できるよう、「校庭で遊ぶときのきまり」を周知徹底する。	【達成状況】 ○児童 91.1% ○教職員 100% ・児童の肯定的回答は市平均と同程度であった。 ・う歯ゼロの児童が72.9%と非常に高く、う歯罹患者の未処置者も12.5%と非常に少ない。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①児童が自己の成長を実感できるように、振り返りの場を大切にした授業を展開したり、教師が児童の成長を認め励ます機会を設定したりする。 ②進んでよりよい生活をしようとする力を養うために、授業での話合いや発表の場、朝や帰りの会、昼休みでの共遊等において、<u>児童が自分のよさを感じたり、友達と認め合ったりする場を設定する。</u> ③助け合う心や思いやりの心を育てるために、縦割り班での清掃や遊び、クラブ活動など、異学年交流活動の場を設定する。	【達成状況】 ○児童 90.4% ○教職員 100% ・児童の肯定的回答は市平均と同程度であった。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①外国語科・外国語活動の授業の充実を図る。 ・児童が必然性を持って英語でコミュニケーションできる課題設定等を工夫する。 ・教員が英語で児童とコミュニケーションを取るとともに、ゲームなどを通してALTと積極的にコミュニケーションを図る授業を展開する。 ②児童が楽しく英語に触れる機会を多くするために、掲示物や音楽放送等を工夫する。 ③児童が英語と触れ合う機会を多くもてるように、ALTとの交流給食や昼休みの共遊、清掃の時間等を、状況を見ながら設定する。	【達成状況】 ▲児童 82.1% ○教職員 100% ・児童の肯定的回答は市平均と同程度であった。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・③については、ALTと触れ合う機会を多くするため、コロナ禍で中止していたALTとの交流給食のもち方を工夫する。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①社会生活を営む上での利便性や先人の思いと現代の暮らしの連続性・共通性等の良さを実感できるようにするために、教科等の学習と関連させ、地域や市の施設、歴史、食や伝統文化などに触れる機会を多く設定する。 ②<u>地域の文化を大切に継承していく心を育むために、地域の行事を紹介したり、参加を促したりする。(夏まつり、瑞台まつり、どんどん焼き、螢のタベなど)</u> ③総合的な学習や教科の学習に宇都宮学の学習を適宜取り入れられるように工夫するとともに、掲示物などで視覚的にとらえられる場を設ける。	【達成状況】 ▲児童 85.4% ○教職員 92.6% ・児童の肯定的回答は市平均と同程度であったが、教職員は4.7ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・①については、他市町村の特色等と宇都宮市とを比較できるような授業展開を工夫する。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①積極的に端末を活用した授業を展開していくとともに、各メディアの特性を理解したうえで、調べ学習等での図書資料活用も行う。 ②各教科等の学習の中で、端末で撮った写真や動画等のデジタルデータを活用したり、まとめや話し合いのための資料作成場面等でも積極的に活用したりする。	A 【達成状況】 ▲児童 87.6% ○教職員 100% ・児童の肯定的回答は市平均と同程度であった。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・積極的に端末を活用した授業を展開できるようにするために、校内職員研修を拡充する。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①自然の恵みへの感謝の気持ちや命の大切さを感じる心を育むために、学校農園や花壇の整備、田植えや<u>虫の飼育などの体験活動</u>を取り入れる。 ②社会科や家庭科、総合的な学習の時間を活用し、環境問題や国際理解、防災や食をテーマとした中で、具体的なSDGsの視点を意識した学習を実践する。	B 【達成状況】 ▲児童 89.2% ▲教職員 70.4% ・児童の肯定的回答は市の平均と同程度であったが、教職員の肯定的回答は7.7ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・①については、自然の恵みへの感謝の気持ちや命の大切さをより感じることができるよう、体験活動の内容ややり方を工夫する。 ・②については、児童の意識を高めるために、学校図書館や掲示板にSDGsコーナーを設けるなどする。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 100%	①特別な支援を必要とする児童に関する情報を全職員で共有し、組織的に対応するため、職員間の日々の情報交換に加え、校内支援委員会や職員会議後の情報交換等を実施する。 ②特別な支援を必要とする児童の個別の支援計画を作成するとともに、保護者と密に連携し、児童の状況や支援計画等について共通理解を図る。 ③通常学級と特別支援学級、かがやきルームが適宜連携を図るとともに、必要に応じ、SCや関係機関の助言を受けながら指導にあたる。	B 【達成状況】 ▲教職員 96.3% ・教職員の肯定的回答は市平均と同程度であった。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・①については、組織的に共通した対応をとれるようにするために、これまで以上に特別な支援を要する児童に関する情報を全職員で共有する。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 100%	①いじめの未然防止と早期発見、いじめ防止への機運を高めるため、「いじめゼロ強調月間」におけるアンケートの実施（年5回）や標語作成、教育相談における児童に寄り添った面談等を実施する。 ②いじめは絶対に許されない行為であることを指導するため、いじめ振り返り心のチェックシートの活用や、道徳や学級活動の時間にいじめを題材とした授業を行う。 ③いじめ対策を保護者へ周知するため、学級懇談会やHP、各種たより、いじめゼロ集会等を活用して、積極的に発信していく。特に学年だよりには「心のふるさと」コーナーを設け、各学年の取り組みや活動を周知する。	A 【達成状況】 ○児童 97.6% ▲教職員 96.3% ▲保護者 78.6% ・児童の肯定的回答は市平均と同程度であったが、教職員は3.2ポイント、保護者は3.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・いじめが発生した際に、児童に寄り添いながら迅速に組織的に対処できるよう、対応方法を見直す。（拡充） ・①については、これまで以上に児童や保護者に寄り添った対応を行えるよう、教育相談や個人懇談期間以外でも、必要に応じて、児童や保護者との面談等を随時行う。 ・③については、取組の様子を保護者や地域に分かりやすく発信する方法をこれまで以上に工夫する。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 100%	①道徳や学級活動の時間を活用して、互いの良さに気付かせたり、思いやりの心を育んだりするとともに、児童一人一人に寄り添い、居がいのある学級経営を実践する。 ②教育相談、各種アンケート、Q-U検査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見に努め、職員間で情報を共有する。また、SCや関係機関とも積極的に連携を図るなど、組織的に対応する。 ③個別の状況に応じた支援を行うため、別室登校ができる部屋やパーテーション等を準備し、児童が短い時間でも学校に来ることができるよう環境を整える。また欠席している児童も授業の様子が見られるよう端末で授業を配信したり、電話や家庭訪問で定期的に連絡したりするなど、保護者と連携しながら支援する。	【達成状況】 ○児童 96.1% ○教職員 100% ▲保護者 85.2% ・児童と教職員の肯定的回答は市平均と同程度であったが、保護者は5.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・①については、居がいのある学級づくりを行うために、分かる授業や個に応じたきめ細かな指導を実践する。
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	①児童一人一人が居がいのある学級づくりに努める。 ・個々のよさを認めるとともに、自ら思考・判断できる場を保障する。 ・楽しく分かる授業の工夫をしたり、さまざまな教科で話し合い活動を重視したりする。 ②自分の良さを発揮できるようにするために、なかよし瑞穂野などの異年齢集団活動を進める中で、児童一人一人の主体的な活動を促す。 ③ほかほか掲示板や校内放送を使い、児童同士でありがとを伝え合うなど、感謝の気持ちを育む。	【達成状況】 ○児童 95.5% ○教職員 100% ▲保護者 85.2% ・児童と教職員の肯定的回答は市平均と同程度であったが、保護者は3.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・③については、これまで以上に個々のよさを認め大切にするために、「ほかほか掲示板」の活用や児童の作品掲示の仕方、それらの家庭への発信の仕方などを工夫する。
3-(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化			
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 100%	①児童が授業での学びを実感・自覚できるように、「めあて」の明確化と「振り返り」の充実を図る。 ②ノート・端末活用においては、学年等で共通理解を図り、記述内容等に大きな差が生じないよう運用するとともに、分かったことをまとめるだけでなく、思考表現の場としても活用し、論理的に記述する力を身に付けさせる指導の充実を図る。 ③習熟度別学習や少人数指導など、児童の実態に応じた効果的な学習形態を工夫するとともに、児童が身に付けた力を活用できるように授業内容・展開等を工夫する。 ④学力向上に向けた取組について、HPや懇談などで保護者にも発信し、啓発を行う。	【達成状況】 ○児童 96.1% ○教職員 100% ▲保護者 84% ・児童と教職員の肯定的回答は市平均と同程度であったが、保護者は2.5ポイント下回った。 ・各種学力テストでは、県や市の平均と同程度か上回っている。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・③については、個に応じた指導の充実を図るため、習熟問題の活用の仕方などを工夫する。

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 100%	①チームとして、学習指導や児童指導、各担当業務に取り組む。 ・各部会（学年主任会・児童なかよし部会・情報部会）の活動を活性化する。 ・学校図書館司書、学校栄養士、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー等と日頃から連携し、児童の状況や支援方針等を共有する。 ②学校全体に関する課題や、いじめ、不登校、事件事故等に関しては、初期段階から管理職がかかわり、組織的に対応する。 ③それぞれの担当業務等について、気兼ねなく相談し合える雰囲気づくりに努める。	【達成状況】 ▲教職員 96.3% ・教職員の肯定的回答は市平均と同程度であった。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・②については、学年で情報を共有するとともに、初期段階から児童指導主任や特別支援コーディネーター、管理職が関わり、これまで以上に組織的に対応する。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 100%	①コロナ禍で縮減したものも含め、教育活動の内容を検討するにあたり、児童への教育効果を第一としながらも、職員の負担軽減の視点も取り入れる。 ②自身の業務を適切にマネジメントする。 ・業務の内容や時間と、それによる教育効果の関係を意識した働き方を進める。 ・計画的に業務を遂行するとともに、リフレッシュの取得に努める。 ③インターネットバンキングや学校徴収金システム等を活用するとともに、<u>地域学校園の事務職員が連携して学校事務を共同実施する。</u> ④それぞれの担当業務等について気兼ねなく相談し合えたり、定時退勤したりしやすい雰囲気づくりに努める。	【達成状況】 ▲教職員 85.2% ・教職員の肯定的回答は市平均と同程度であった。 ・効率化に取り組んでいるが、業務改善の実感には至っていない。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・①から④について管理職が適切な指示や助言等を行うとともに、教職員のモチベーションを保つような業務の縮減や効率化等を工夫する。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答90%以上	①<u>乗り入れ授業やあいさつ運動、小6児童の中学校訪問、宮っ子チャレンジなど、児童・生徒・職員が交流する教育活動を実施する。</u> ②<u>地域学校園各部会や児童生徒指導強化連絡会等での情報を校内で共有する場を設定する。</u> ③<u>学校間の相互支援による学校事務の効率化を図る。</u> ④各種便りやHPで活動を紹介するとともに、<u>学校園で作成した通知等についてはその旨を明記し、取り組みを児童や保護者、地域へ周知する。</u>	【達成状況】 ▲児童 87.8% ▲保護者 72.3% ▲地域 88.9% ・児童の肯定的回答は市平均と同程度であったが、保護者は8.4ポイント、地域は5.2ポイント下回った。 ・コロナ禍以前と同様の取組を行うことができた。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・④については、取組の様子を保護者や地域に分かりやすく発信する方法をこれまで以上に工夫する。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答90%以上	①各教科等の様々な学習活動や登校・下校指導等に、保護者や地域ボランティア、地域の企業等の協力を得るとともに、協力してくれた方々などの意見を踏まえ、活動内容の改善を図る。 ②学校行事・授業参観・オープンスクール・土曜授業等で児童の多様な教育活動を公開する。 ③学校の取組の周知・啓発のため、HPや学年だより等を活用して保護者や地域に発信する。	【達成状況】 ▲児童 89.8% ▲保護者 82.2% ○地域 100% ・児童の肯定的回答は市平均を2.2ポイント、保護者は7.0ポイント下回ったが、地域は2.9ポイント上回った。 ・コロナ禍以前と同様の取組を行うことができた。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・①については、魅力協との連携をこれまで以上に強化する。 ・③については、取組の様子を保護者や地域に分かりやすく発信する方法をこれまで以上に工夫する。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上	①事故の未然防止や危険個所の早期発見のために、日々の活動の中での点検や月1回の安全点検を適切に実施し、適切に処置する。 ②市教育委員会と連携し、必要に応じて、早急な改善や予算措置等の要求を行う。 ③学校施設を貸与している団体と適宜連絡を取り、学校施設の安全な使用について具体的に働きかける。	【達成状況】 ○教職員 92.6% ▲保護者 86.1% ○地域 100% ・教職員の肯定的回答は市平均を5.7ポイント、保護者は4.3ポイント下回ったが、地域は4.0ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・本年度の取組を継続する。 ・①②については、ヒヤリハット事例を校内で共有し、学校内で修繕できないものについては、修繕や買い替えなど具体的に要望をしていく。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答100%	①ICT支援員と連携しながら、デジタル機器の設定や授業への活用方法等を検討し、授業実践する。 ②デジタル機器の活用スキルを高めるために、職員研修や自己研修等に取り組むとともに、職員間での情報交換や授業参観を行う。	【達成状況】 ▲教職員 92.6% ・教職員の肯定的回答は市平均を2.3ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・本年度の取組を継続する。 ・①については、個々で作成したデジタル教材を共有することなどにより、さらに授業準備の効率化を図る。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上	①児童の意識化を図るために、職員が率先してあいさつを行うとともに、「みず台3つの約束」の「元気なあいさつ」で、あいさつの対象者を具体的に明示しながら指導する。 ②児童会を中心とした「あいさつ運動」において、放送での呼びかけ、当番児童のたすき着用、運営委員会児童による業間や昼休みのあいさつ巡回などに取り組む。 ③「みず台3つの約束」の「正しい言葉づかい」の指導を継続し、更なる家庭や地域との連携を図るために、学年だよりの「心のふるさと」にも指導内容を掲載する。	【達成状況】 ▲児童 87.6% ▲教職員 88.9% ▲保護者 80.7% ○地域 100% 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・②については、児童の意識がより高まるように、あいさつ運動の方法やその振り返り方を工夫する。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上	①「みず台3つの約束」を児童指導の柱とし、日常生活の中で児童に意識させるために、学年の実態に応じた生活目標を設定して指導する。 ②「よい子の一日」や「よい子の学習のきまり」を活用して、きまりやマナーの意義を考える機会を設定する。	【達成状況】 ○児童 90% ○教職員 96.3% 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。 ・廊下や階段での怪我が多いため、安全に校舎内を移動するための効果的な取組を検討する。

	B3 児童は、縦割り班やグループで、協力し合って活動している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①縦割り班活動の内容を事前に教師が共通理解した上で支援し、児童が活動に見通しを持って主体的に取り組めるようにする。 ②縦割り班活動の中に学び合いの活動を取り入れ、上級生の自覚とリーダー性を養う。また、下級生は上級生に対し、親しみや憧れ、感謝の気持ちをもてるようにする。	B	【達成状況】 ○児童 91.7% ・コロナ禍以前と同様の取組を行うことができた。 【次年度の方針】 ・これまでの取組を継続する。
--	--	--	----------	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全23項目中、数値指標を達成したものはA4・A5・B2の3項目だった。また、達成できなかったが市平均と同程度を達成したものはA3・A6・A7・A8・A10・A15・A16の7項目だった。これらの10項目については概ね目標を達成できており、次年度もこれまでの取組を継続し、指標達成につなげていきたい。
- ・数値指標を達成できなかった項目には、保護者の肯定的回答が低いものが多い。特に、A11からA14の4項目については、児童の肯定的回答が数値指標を大きく上回っているにもかかわらず、保護者の肯定的回答が低くなっている。児童だけでなく保護者にも寄り添った対応ができていたかどうかを検証するとともに、保護者への取組内容の周知方法を工夫する必要がある。
- ・A17・A18については、ここ数年コロナ禍で実施できなかった活動を復活したにもかかわらず、児童・保護者の肯定的回答が低くなっている。活動を実施する際には、活動内容だけではなく、その目的や意義もしっかりと伝える必要がある。

7 学校関係者評価

- ・〈A6について〉英語に親しむ機会を今以上に設けるとよい。英語はこれからますます重要になるので、小さいうちに英語に親しむために、空き教室の活用やALTとの交流など取り組むとよい。
- ・〈A17,18について〉地域に眠る人材を発掘し、地域と学校との交流を再活性化するとよい。家庭だけでなく工業団地にも優れた技術を持っている方がいる。将来に向けて、優れた技術を見せたり憧れを持たせたりすることが大切である。地域ボランティアを積極的に活用できるとよい。
- ・〈学校と地域の連携について〉学校と地域が情報を交換する機会を設けるとよい。地域協議会に参加する職員だけでなく、様々な年齢層の職員と地域の方が話し合う場を設けたい。
- ・〈保護者の肯定的回答が低い件について〉児童が家庭でどれくらい学校の話をしているだろうか。学校の話をしてもらうような取り組みを行うことで、学校での指導についても理解を得られるのではないかな。
- ・〈学校関係者評価について〉評価をすること自体が難しいと感じる。オープンスクールや地域協議会で来校した際に見る学校の雰囲気だけでは測れないものがある。
- ・〈評価から見えた課題について〉地域協議会において、本評価から見えた課題の改善策を検討するとよいのではないかな。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 学習指導においては、引き続き、主体的・協働的に学ぶ合う場の設定、場の工夫等を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の研究を進め、既習内容を生かして自分の考えを持つことができるような課題を設定したり、「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を授業の中に位置づけたりし、学力の向上を図る。同時に一人一台端末の効果的な活用を推進し、探究的な学びや社会とつながる協働的な学びを進めていく。
- ・児童指導においては、いじめや不登校対策を含め一人一人が居心地のよい学級・学校づくりに向け、これまでの取組を継続するとともに、保護者や地域に学校の取組を丁寧に説明したり発信したりし、共通理解を図りながら進めていく。
- ・特別支援教育においては、通常学級と特別支援学級、かがやきルームが適宜連携を図る。また必要に応じSCや関係機関の助言を受けながら、児童や保護者の困り感に寄り添い、組織的に指導にあたる。
- ・地域学校園の取組の周知を図るために、地域学校園とのつながりを意識しながら日々の教育活動をするとともに、保護者へ積極的な情報発信をしていく。
- ・「心を育む時間」や「みず台3つの約束」等を活用して、児童にとって居場所のある学校になるよう努めていく。また、児童が進んであいさつができるように、あいさつ運動を推進するとともに、「誰にでもあいさつ」を心掛けさせながら、具体的対象者も確認させることで意識を高めていけるようにする。